

## 日本維新の会・馬場幹事長の「暴言」

毎日新聞「日曜クラブ」松尾貴史のちょっと違和感は、いつも示唆を得ることが多い。5月16日「維新幹事長が『立憲民主は必要ない』発言 民主主義の否定だ」も、維新という政党に鋭く迫っている。抜粋して紹介したい。



この先、日本国憲法が今の政権に都合よく改悪されてしまう可能性も大きくはらんでいるであろう国民投票法改正案の修正を提案して、それを与党に飲ませたという名目のもと、立憲民主党が賛成にまわってしまったことで、改正案は今国会会期末までに成立する見通しだ。

その件に絡めて、日本維新の会の馬場伸幸幹事長が、立憲民主党のことを「日本には必要のない政党」と言ってしまった。それも、雑談やオフレコの類いではなく、公の記者会見で言ってしまったのだ。政治家である以前に、社会人としてもどうかと思うような暴言ではないか。いわゆる公党の重職にある者が、政党の存在を「不要だ」と公言したのだ。こういう人物こそ、この職にとどめている段階で、維新がどういう組織かということが推して知れよう。

しかし「日本には必要ない」という表現になったのは、まさか自分が日本そのものだと思っただろうから（可能性はあるが）、「自分たちにとって邪魔だ」ということの表れだったのかもしれない。実は、国民投票法改正案は自分たちが協力して成立させたという手柄が欲しかったのに「横取りされた」とでも思っているのではないか。平たく言えば、立憲民主党に対する嫉妬から出た売り言葉なのかもしれない。

自分たちと対立することが多い政治勢力だとしても、存在を「必要ない」というのは、それを支えている国民も一定の数存在していることを考えると、自分たちを支持しない国民についても「日本に必要ない人たちだ」と思いかねないということではないのか。完全な民主主義の否定だ。公人として、釈明なり、謝罪なり、議員辞職なりすべきだろう。

私の感じるところでは、維新は野党のふりをしつつ、自公政権にべったりのアシスト党の印象が強い。事あるごとに「身を切る」と言いつつも、逆のことばかりやっている。

新型コロナウイルスの感染が拡大する中、雨がっぱで大騒ぎして多くの善意を無駄にしたが、なぜか出勤回数が少ない大阪市長。イソジンなどについての「うそのような本当の話をする」と言って、その後納得のいく説明もない大阪府知事は、そのあたりの検証もなく連日テレビにばかり出て選挙対策。

仕事はできているのかと言えば感染対策では失敗と混乱が続き、コロナ対策そっこのけで愛知のリコール騒ぎ。大阪では都構想の扇動。「立憲は不要」「大阪市は不要」と言うが、自分たちが必要とされるならどうあるべきなのかを、ぜひ見つめ直してほしい。

(2021年5月19日)